

アカシア探険隊

MI・2011(冬)
～大本組本社ビル潜入の巻～27回 大本 榮一氏
～株大本組 代表取締役社長～

「♪人生楽ありゃ苦もあるさあ～♪」
ということで、今回はアカシア会の黄
門様こと、27回卒の大本榮一大先輩を
訪ねて岡山へ行って参りました。

大本先輩は昭和11年(1936年)のご卒
業。広島文理大学(現在の広島大学)文
学部を卒業された後、陸軍予備士官学
校を経て陸軍士官として第二次世界大
戦も経験されております。

終戦後は大本組の経営にあたられ、
健全経営をもって知られる大手ゼネコ
ンに育て上げられました。現在も現役
の社長として、そして様々な団体の役
員として公私共に社会に大きく貢献さ
れております。

そんな大本大先輩に、学生時代の思
い出や、人生哲学など、貴重なお話し
を伺いました。そして勿論、アカシア
への想いや、現役生徒諸君へのメッ
セージもお預かりして来ました。



谷：本日は大変にお忙しいところ、お
時間をいただき有難うございます。

大：遠いところをよう来てくれた
のう。ゆうても、広島と岡山じゃあ、
そうでもないか。ワッ・ハッ・ハッ・



ハ。ところで、中本君や谷口君は、
仕事は何をしようんや？

中：私は印刷関係の仕事で、谷口はI
T関係の仕事をしております。

大：ん？もっと具体的に判りやすうに
言うたらどうなるん？

……と、暫くインタビューに対する
逆取材が続く……

大：なるほどの。で、今日はワシは何
を喋りゃあエエんかの。

谷：早速ですが、子供時代の思い出を
お聞かせ願えますか？

大：ワシはね、小学校は広島偕行社附
属済美小学校に通うとった。今の合
同庁舎のあたりにあって、自宅が
あった西引御堂町(現在の中区広瀬
町周辺)から30～40分かけて歩いて
通うたんよ。

谷：小学生でそんなに長時間歩いて通
うなんて大変でしたね。

大：当時はそれが当たり前よ。ゆうて
も遅れそうになって電車に乗った事
もあったがの。ワッ・ハッ・ハ。
とても躰けの厳しい学校で、勉強も
しっかりやらされたよ。

中：そんな中で、当然附中を目指され
たわけですね。

大：当時の男子は広島一中(現国泰寺
高校)、二中(現観音高校)などを目
指しておった。勿論附中(広島高等
師範学校附属中学校)もその一つで
No1よ。ほいじゃが、全国から、
少なくとも西日本全域から受験生が
集まるんでえ、受かる訳が無いじゃ
ろう。それでも一番早い時期に入試
があった附中を「試し」に受けたら、
なんとこれが受かったんよ～。やっ
てみにゃいけんよ、何でも。(一同大
爆笑)

谷：そうは言われても、ある程度自信
がお有りになったのでは？

大：うんにゃ。当時の入試は学科だけ
じゃ無うて、体育や音楽や面接も
あった。体育の試験は鉄棒の懸垂が
課題でこれが0回じゃった。ゼロ
でえ。普通受かる訳が無かろう。じゃ



P r o f i l e

大正8年1月30日広島市中区十日市町生まれ、
昭和11年3月広島高等師範学校附属中学卒業、
16年12月広島文理科大学文学部卒業、21年9月
株式会社大本組入社、24年6月取締役副社長、
36年8月代表取締役社長、37年10月～現在日本
社会人野球協会中国地方連盟(現財団法人日本
野球連盟中国地区連盟)会長、40年4月～46年
3月岡山商工会議所副会長、54年11月藍綬褒章
受章、昭和56年2月～平成4年5月社団法人岡
山県建設業協会会長、平成3年5月～4年5月
社団法人全国建設業協会副会長、7年11月勲四
等旭日小綬章受章、11年6月代表取締役会長兼
社長に就任現在に至る。
永年に亘り岡山アカシア会会長を勤められる

が今思い返すと面接で印象的なこと
があったんよ。面接官が「君、心臓
は体の右かね？左かね？」と聞いて
きた。当然「左です」と答えたら、「そ
んな事は無い。右じゃろう！」と言っ
てきた。そんな時とても慌てたが、「現
に今私の体の左側でドキドキしてい
ます。間違いありません！」と答え
た。そしたら「参った。君の言う通
りだ。」と試験官。これで受かった
んかも知れんが、世の中ゆうもんは
可笑しいもんじゃのう。

谷：附中入学後の思い出をお聞かせ願
えますか？

大：さっき言うたように入試で鉄棒懸
垂が0じゃった。フウが悪りかろ
う。これをまず克服した。放課後に
毎日これに取り組んで、半年後には
11回できるようになった。そんなとき
実感したんよ。「やればできる」と。



ヒトにうれしいコト。

これまで、みなさまに「おいしさ」で
「うれしい」をお届けしてきた私たち、カルビー。
でも、「ヒトにうれしいコト」は「おいしさ」だけではありません。
"美しい音色を聴いて、心が潤う"ことも、
"素晴らしい絵画を見て、心が動かされる"ことも、
私たちの暮らしになくてはならないこと。
これからも「ヒトにうれしいコト」を、カルビーから。

振りだそう、自然の力。

Calbee

そして「何でも世間並みに出来にゃいけん、人並みにせにゃあいけん」と。それから自信がついたんか知らんが、色々なスポーツに挑戦したね。バレー、テニス、バスケット、サッカー。上手かどうかは別じゃが。でも「何でもやってみんとわからん」、「やればできるようになる」と確信しとったよ。

谷：野球はなさらなかったんですか？

大：勿論やったよ。小学校の時から大好きじゃった。一中や県商(県立広島商業)にも負けんように頑張った。ほいじゃけえ今もワシは社会人野球協会中国地方連盟の会長をやっとる。今の生徒はどうなんや？

谷：昭和30年以降は軟式野球に代わったので甲子園とは無縁ですが、それなりに頑張っています。

大：軟式がエエんかどうかは知らんが、何でも世間並み、他の学校並みにせにゃあいけん。世の中の常識に沿った事をやる。それが生徒の為じゃ。

中：ご卒業後は広島文理大学に進まれましたね。

大：ほうよ、将来は学校の先生になろうと思うてのお。ところが大学3年生の終わり頃、忘れもせんが大変な事が起こったんじゃ。昭和16年、1941年12月8日未明、真珠湾攻撃よ。そのまま大東亜戦争勃発じゃ。そしてこの年の12月に繰上げで卒業。「学生は陸軍でも海軍でも、とにかく兵役に服せ」と。無茶よ。それで岡山の中部第48部隊歩兵連隊に陸軍二等兵で入隊。それから試験を受けて保定(中国の天津市西方)の陸軍予備士官学校に7期生として入学して半年後に帰国。その後は大学で先生のコースをとってあったのが考慮されたのか、兵を育成して前線に送る仕事を任されたんよ。専門は通信での。モールス信号の打ち方から、暗号のやり方やら、通信文の扱いその他全般を教えて、だいたい3ヶ月ほど教育しては、兵隊を中国戦線、インドシナ戦線、フィリピン経由でラバウルやガダルカナル方面へと送ったんよ。まだ日本軍が制海権・制空権を持っておった頃はね。

谷：実は私の父も大本先輩と同年で、海軍の通信部で教官をやっておったんです。ガダルカナルの前線へ出た後ですが。ガダルカナルでは陸軍の玉砕部隊に助けられたそうです。先輩が教育された方々だったか

もしれませんね。

大：お〜、ほうか！人は何かの繋がりがあもんじゃのう。あんたのお父さんとは逆の順番で、ワシも前線へ出たんよ。だんだんと戦局が悪くなって来て、内地に残るとる訳にもいかんようになり、昭和20年の正月2日に広東省への出征命令が来た。丸亀に集結して、博多から敵の潜水艦がウヨウヨしとる日本海を越えて釜山へ行き、鴨緑江を渡り、空襲を避けるために夜だけ動く貨車に馬と一緒に乗って、シラミだらけになりながらやっと上海に着いた。10日程かかったかのう。そしたらそっから先へ行く艦が無い。もう日本には制海権も制空権も無うて、そこで足止めじゃ。そうこうするうちに8月9日ソ連参戦よ。当然満州転戦の命令が来た。準備が整って上海停車場を出発しようとしたのが8月15日。陛下のお言葉がラジオで流れたが、ガーガー雑音だけしてさっぱり聞こえなかった。



中：終戦を迎えられたときの正直なご感想は？

大：やれやれよ。飛行機も無い、艦も無い、勝てる訳が無いじゃろう。なんでこんな事をしよるんかと思うとったよ。

谷：帰国後はご養子に入られていた大本家の家業を継がれたわけですが。

大：先生になろうとしていた人間が、時代にのまれて戦争に行き、それが終わったらドカタの大将じゃ。人生わからんもんよ。今でこそ建設業、建築業と言うが、当時は請け負い稼業じゃ。大学出のインテリで理屈を覚えた人間がやる仕事じゃなかったんよ、当時は。理屈よりも人情が優先される世界じゃ。じゃが、常に「在平素(全ては日頃の行いが大切である)」、「国家社会の為に働く」事を旨として今日までやって来た。まがりなりにもここまで来れたのは、小

学校・中学校と、この精神を叩き込まれてきたことが大きいいう。

谷：現役の生徒たちへのメッセージをお願いしますか。

大：さっき言うたように、先ず第一は「在平素」よ。今日やるべき事は今日やる。先送りは絶対にダメじゃ。第二は「何でもやってみる」行動力。やりもせんうちに「出来ん」とか「無理じゃ」とか、「危ない」とか言う井の中の蛙じゃあいけん。何でもやってみにゃあわからんじゃろう。勉強・学問は大切。しかし理屈を覚えても行動できん人間はダメじゃ。行動は理屈を越える。行動・実践した結果によって理屈・理論が導き出される事を忘れちゃいけん。最後の第三は「人並み・世間並みの事をせよ」じゃ。狭い世界に逃げ込んで、理屈をこねても広い世間では通用しない。早くから世間を知る術を持っても損は無い。以上を実践すれば大丈夫。ワシも附中に入った時は、多分ビリに近い方の成績じゃったろうが、卒業するときには一番の成績を取って、卒業生代表で答辞を読んだ。今初めて言うんじゃがの。それも今述べた第一〜第三の心がけを教えてくれた先生方のおかげじゃ。

中：アカシアのメンバーへのメッセージをお願いします。

大：学生に言いたい事とあんまり変わらんよ。それでも強いて付け足して言えば、人生色々な巡り合わせがあるが、その場その時に応じて「最善・最大を尽くせ」という事。巡り合った事態に文句を言うても意味は無い。それよりその事態に応じた「最善・最大を尽くす」事が事態打開・進展の最大の武器じゃ。あとは我が社の社是を見てもらええエエ。要は信用・誠実じゃ。人を騙して世の中渡る事は絶対に出来ん言う事よ。ワッ・ハッ・ハ。

谷：今日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

中本 泰弘(65回)

谷口 公啓(73回)



左から谷口公啓(73回)、大本榮一氏(27回)、中本泰弘(65回)